

イギリス人＝ユーモア

イギリス人のユーモアは、どちらかというと控え目です。何気なく、すました顔でユーモアを口にします。

『第二次世界大戦中、ロンドンのホテルの玄関が、ドイツ空軍の爆撃によって破壊されてしまいました。翌日、ホテルは次のような立て札を立てました。「只今、拡張工事中」』

イギリス人のユーモアは真実を語るものが多く、ホテルの立て札も、拡張するためにいったん破壊作業が必要である点で、風景として立て札に何の疑問もわきません。ただ爆撃を受けたという一点を除けば。

アメリカ人＝ジョーク

アメリカ人の笑いはユーモアというよりジョークといったほうがふさわしいものです。つまり、真実を誇張して大袈裟な表現にするのがアメリカ的な笑いです。

『ケネディ大統領とメキシコのロペス大統領がいっしょに車に乗っていました。

「素晴らしい腕時計をお持ちですね」

ケネディ大統領がそう褒めると、ロペス大統領は自分の腕からはずして、

「差し上げます」

「いや、私はそんなつもりで言ったのではありません」

ケネディ大統領があわてて断わると、ロペス大統領はきっぱりと、

「閣下、わが国には、他人から褒められたものは進呈する習慣があるのです」

「わかりました。では遠慮なく頂戴します」とケネディ大統領。

しばらくして、ロペス大統領がこう言いました。

「閣下、あなたはじつに素晴らしい奥様をお持ちですね」

ケネディ大統領は慌てて腕時計を返したということです。』

フランス人＝エスプリ

フランス人のは洗練されたエスプリがその本領といえます。つまりひねりが利いているのです。たとえば次のような小話があります。

『自信家だったドゴール大統領が、珍しく教会で熱心にお祈りをしているので、そっとそばに近寄ってお祈りの内容を聞いてみると、ドゴールはこう言っていたそうです。

「神様、フランスのことはこの私にお任せ下さい」』

『ニクソン、ブレジネフ、毛沢東、ドゴールが天国で神の御前に集まりました。神様は各人が自分の国に尽くした功をほめたたえ、「国民のためになるような願いをひとつだけ叶えて進ぜよう」と言いました。

まずニクソン。

「神様、いまましい共産主義者を地上から抹消して下さい」

続いてブレジネフ。

「ああ神様、アメリカの帝国主義者と中国の裏切り者を抹殺して下さい」

毛沢東。

「神様！ 地球を汚す張本人のアメリカとソ連の大ブルジョアどもを、この地上から取り除いて下さい」

ところがドゴールは順番がきても何も言わない。神様はドゴールに聞きました。

「あなたは何の願いもないのですか？」

ドゴールは「ええ、とくにありません」と言ってから、こう付け加えました。

「ここにいる紳士たちがいま言った願いをすべて叶えてやって頂く以外には……」』

『ある男に舞踏会の招待状が送られてきました。入場無料と書いてあったので、喜んで出かけて行って存分に楽しみ、さて会場を出ようと出口までくると門番がいてお金をよこせと言うので、
「入場無料じゃないのか?」
「そうだ」
「じゃあ何で金をよこせなんて言うんだ」
「入場は無料だが、出るには金が要るんだ』』

『結婚前には目を開き、結婚してからは目をつむれ』

『バスの中。若い娘が座席に座っている中年紳士に、
「すみませんが、わたし妊娠しているので、席譲って頂けませんか」
「いいですとも」
男はすぐに席をたつて娘を座らせたが、スラリとした身体でとても妊娠中の女性には見えない。
「失礼ですが、妊娠何カ月ですか」
すると娘は恥ずかしそうにこう答えた。
「いまから三十分くらいまえに、赤ちゃんがお腹の中にはいったんです』』

七福神信仰

恵比須一大黒天一弁財天、比沙門天、布袋、福祿寿、寿老人、の七人が福を呼ぶ縁起のよい神様です。商業、農業、漁業の神に役割分担され、子孫繁栄、財産獲得、健康長寿、願望成就といった民衆の持っている願望を、すくい上げてくれる神様として、昔から信仰の対象とされてきました。

宝舟に乗った七福神は、いまでも縁起物として人気があります。笑いの神への信仰と、招福はわが国では密接につながっています。

〔七福神の履歴書〕

恵比須=鯛を抱えて釣り竿を持ちエビス顔で笑っています。恵比須の語源は「笑う」ことで、文字どおり笑いの神として信仰されており、海に関係あり漁業の神、商売繁盛の神でもあります。

大黒天=頭に頭巾、右手に打ち出の小槌、左手で背中に背負った大袋の口を握り、米俵の上に座っています。そして円満な顔で笑っています。魔除け、五穀豊穰、子孫繁栄。財宝招来、商売繁盛といろんなご利益が期待できる福の神。大黒柱もこの神に由来します。

弁財天=七福神中ただ一人の女神、古代インドの神に由来し琵琶を持ちます。川の名から出た神で、弁舌、音楽、学問の神。後に福德財宝が加わって鎌倉の銭洗い弁天は、銭を洗うと倍になって返ってくるといわれます。通称弁天様です。

毘沙門天=仏法の守り神。七宝で飾った甲冑をつけ、いかめしい顔。七福神では唯一笑いがありません。毘沙門を本尊とする寺の僧の鉢には、自然に食物がはいっているとの言い伝えがあります。

福祿寿=背が低く頭が長くコミカルな様子の神様。福と祿と寿命の三徳をかねそなえているといわれます。福とは子孫繁栄、祿は財産獲得。もとは中国の道教から出た神様ですが、現在のキャラクターは日本化されたものです。

寿老人=福祿寿と同じく中国道教からでた神。歴史学者の樋口清之氏によれば、道教の神の太上老君もしくは南極老人が原型との説を述べておられます。福祿寿から寿命だけが分離して長寿の神様になったと考えられます。

布袋=七福神で一人実在の人物。中国の禅僧布袋和尚(名を契此という)が神格化したものです。大きなお腹をして、杖と布袋を持って放浪をし、喜捨でもらった物を袋に入れていました。その膨らんだ袋を見て人びとは布袋和尚と呼びました。袋の中身は知恵です。

出身も経歴も異なる七人の神様が、室町のころいっしょになって、人びとの信仰を集めるようになったのが七福神です。唯一共通するのは、毘沙門天を除いてどの神様も笑っていることでしょう